

研究調査報告

鎌田共済会図書館と郷土博物館

宮武 尚美

(鎌田共済会郷土博物館)

1. 財団法人鎌田共済会

財団法人鎌田共済会（2011年に公益財団法人に認定）は、「慈善、育英、各種社会教育」を目的として1918年3月に設立された。創立者である鎌田勝太郎（1864-1942）は、実業家・政治家として活躍する一方で社会教育活動にも力を尽くし、図書館（1922年）、郷土博物館（1925年）、社会教育館（1927年）、武道館（1934年）、物産館（1939年）を次々と開館させた。現在も継続しているのは郷土博物館のみであるが、2004年には四谷シモン人形館を新たに開設し活動している。

2. 鎌田共済会図書館

鎌田共済会の社会教育事業として、はじめに図書館がつけられた（写真①）。1階には男子閲覧室（写真②）、婦人閲覧室、児童閲覧室、新聞閲覧室があり、利用は無料で閲覧は開架式であったが、児童閲覧室では、子どもが利用しやすいよう開架式が採用されていた。

2階は講堂、倶楽部室、調査室、参考室（展示室）が設置され、講演会、講座、展覧会などの事業もさかんに開催された。

開館の翌年からは、学校や社会人を対象とした巡回文庫を開始し、遠方の利用者への利便性を高めた。また読書組合も組織され、組合長の申請で図書の貸出を行うほか、年に一度の総集会では組合員の意見発表や優良組合



写真② 図書館男子閲覧室

員の表彰等が行われた。分館（1937年）や出張文庫（1941年）もつけられ、図書館事業は年を追うごとに発展していったのだった。

3. 鎌田共済会郷土博物館

図書館開館とほぼ同時期に、郷土の歴史・地理に関する調査研究と郷土史料を蒐集する調査部が設立された。調査部は図書館からは独立した事業として立ち上げられ、郷土博物館が開館すると共に活動していった。

郷土博物館では所蔵資料に加え、県内各地から資料を借用して年に1回の展示替えが行われていた。展示資料への理解をより深めてもらうため、希望があれば展示解説を行うほか、第3回陳列からは、展示品の説明をまとめた陳列品解説の発行が始められた。

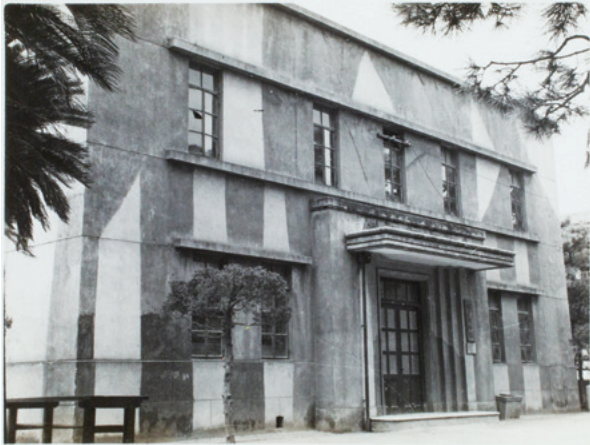
当時の職員である岡田唯吉が調査部及び郷土博物館の活動を牽引し、県内各地に赴いて発掘調査や郷土の偉人の事績調査等にあたり、時には東京や京都の研究者のもとへ出かけることもあった。そうして得られた研究成果は、書籍として鎌田共済会から出版されている。

4. 戦中・戦後の様子、それから

時代が戦時体制に移っていくと、鎌田共済会の各施設はその影響を受けていく。図書館で行われた行事内容を見ると、戦争に向けて民衆を鼓舞する講演会や、「資源愛護と家庭廃品利用展覧会」が開催されるなど、戦時色が濃くなっていく様子が見て取れる。そのような中でも、



写真① 図書館が開館して間もない頃の様子



写真③ 迷彩塗装された郷土博物館の建物

教育紙芝居の貸出（1943 年）や市内国民学校へ貸出文庫（1944 年）を新たに開始するなど、読書の機会を増やす努力は続けられた。

防空のために鎌田共済会の各建物は迷彩に塗られ（写真③）、窓ガラスには紙が貼られた。そして図書館前には共同待避壕が掘られた。1945 年 4 月からは図書の疎開が始まり、疎開図書の目録作成・整理、縄づくり、箱詰めなどが行われ、県内数カ所及び館内床下に移された。

創立者である鎌田勝太郎は 1942 年に亡くなったが、その意思を受け継いだ鎌田憲夫会頭は、何とか図書館事業を継続させようとしていた。しかし 1945 年 6 月以降は建物を軍に明け渡し、そのまま終戦を迎えたため、やむなく休館せざるを得なくなってしまった。

郷土博物館は軍の要望により需品廠として利用されたため、1944 年に閉館。戦後は食糧営団の事務所、市立病院仮診療所、理容学校、珠算学校として使用され、本格的に再開館できたのは 1955 年であった。

戦後、図書館は 1946 年 1 月に再開したが、財政難のため 6 月からは会費を徴収する会員制をとることとなった。これについては、当時の職員も今さら有料制することに抵抗感を抱いていたことや、国の方針として閲覧料は無料とするアメリカ式経営に沿うよう圧力があつたことを鑑みると、図書館事業を継続させるための苦渋の決断であったようだった。新たな活動として相談部の新設やアメリカ文庫、CIE 坂出文庫が設置された一方で、児童文庫、分館、出張文庫は閉鎖された。

そして 1951 年から 1979 年まで、建物・図書・設備全てを坂出市に貸し



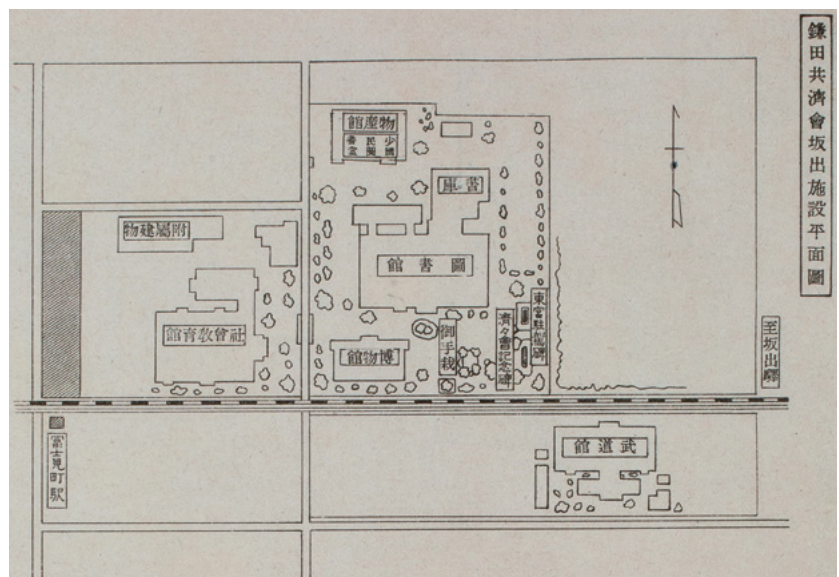
写真④ 現在の鎌田共済会郷土博物館

出し、坂出市立図書館として図書館事業が継続されることとなった。

坂出市から返還後の図書館業務は大幅に縮小され、2 階で続けられた。1 階は瀬戸大橋建設予定地で実施されていた埋蔵文化財発掘調査の事務所として使用され、その後は坂出市シルバー人材センターにも貸し出された。平成の世になると JR 予讃線の高架事業のため鉄道用地が拡張されることとなり、線路のすぐ横に立地していた郷土博物館は取り壊され、1992 年に図書館建物へ移転、以後は郷土博物館として現在まで活動が続いている（写真④）。

5. さいごに

鎌田共済会図書館及び郷土博物館は、時代の流れの中でさまざまなことが起こった。しかし創立者 鎌田勝太郎の思いが凝縮した鎌田共済会の理念「百年の大計は人を樹うるに在りとの信念は須臾も息まず」は常に私たちとともにあり、これからの 100 年につながることを願うばかりである。



写真⑤ 鎌田共済会の各施設（1941 年頃）